

標茶町育成牧場の沿革



- 昭和20年まで 軍馬補充部用地として自然放牧利用
- 20年から 農開協有の採草放牧地として共同利用
- 41年 標茶町が1477haを一括買収し、事業申請
- 47年 【多和育成牧場】開設
乳用後継牛の周年受託育成事業を本格的実施
- 49年 肉用めん羊を導入
- 61年 【標茶町育成牧場】に改称、上オソベツ団地を編入
- 平成2年 肉用牛導入
- 5~7年 ふれあい施設整備
- 18年 哺育センター開設

<事業のあらまし>

- 昭和42~46年 国営大規模草地改良事業
- 昭和54~58年 公共牧場整備事業
- 昭和61年 国営草地開発事業
- 昭和63~平成2年 公共牧場整備事業
- 平成8~15年 道営公共牧場整備事業

平成28年度 電源立地地域対策交付金事業



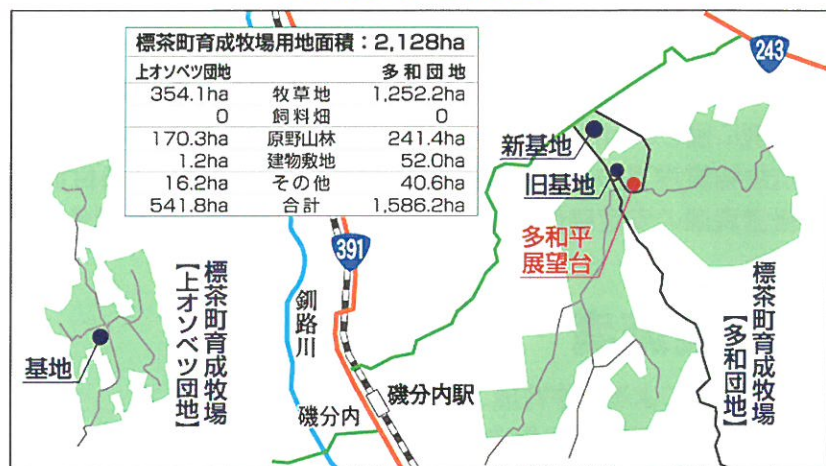
ようこそ

標茶町育成牧場へ

牧場施設配置図



牧場用地概要

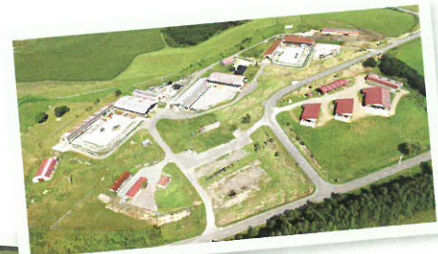


標茶町育成牧場用地 総面積：2,128ha

- 牧草地…1,606.3ha
- 原野山林…411.7ha
- 建物敷地…53.2ha
- その他…56.8ha



- 標茶駅から…車で約20分
- 釧路駅から…車で約80分
- 釧路空港から…車で約100分



お問い合わせ 標茶町育成牧場

(管理事務所)〒088-3141 北海道川上郡標茶町字標茶788番地5
TEL:015-486-2747 FAX015-486-2745

●HP: <http://www.sip.or.jp/~tawa360> ●ライブカメラ: 標茶町役場ホームページから

観光に関することは… ●グリーンヒル多和 TEL:015-486-2806 ●標茶町観光協会 TEL:015-486-2264

地中熱活用による仔牛育成コンソーシアム

仔牛は農場の未来を紡ぐ「宝」です。
仔牛は毛や皮下脂肪が少ないため、気温の影響を大きく受けます。最適気温と言われる13~25度を維持するには多くの工夫が必要になります。
でも保温しようと施設を締め切っていると、湿気やホコリ、時にはアンモニアや細菌が増加します。それは抵抗力の弱い仔牛にとって劣悪な環境です。
「保温」と「換気」... その両立は丈夫な仔牛を育てるキーであるのはわかっていますが、なかなか難しいものでした。標茶町ではその実現を目指し、平成29年1月、標茶町育成牧場に「地中熱交換システム」を設置しております。



標茶町育成牧場 哺育センター 「地中熱交換システム」のご紹介

地中熱交換システムを検討するにあたり、再生可能エネルギーの普及を目指す
標茶町エコヴィレッジ推進協議会、先駆者である長坂牧場などとコンソーシアムを組織しました。
導入するシステムは、すでに北海道から長野県まで70件以上(平成24年度現在)の施工実績を持つ
積水化学の「エスロン®リブクール®」としました。
事業費は北海道の「一村一エネ」事業を活用し、普及に向けた取り組みを進めております。

時代・気候変動に対応できる地中熱活用による 仔牛育成モデル事業 【標茶町】

事業概要

多数の酪農家では①搾乳室の床凍結による転倒防止対策、②家畜の飲み水や搾乳機等の水分凍結防止、③育成舎の暖房等で電気ヒーター、ボイラー等を焚くことが日常化しています。

特に、冬場では暖房が優先で換気を行なうことが少なく、肺炎等発症の原因となっております。

本事業では、これらの改善対策として、樹脂製パイプによる地中熱交換システムを導入します。

この地中熱交換システムは、パイプの耐用年数が50年以上と長く、非常に単純なシステム・方法(地下約2m程度にパイプを約100m埋設しそこに直接外気を吹込み地中熱で熱交換)であり、その導入により地産地消が可能な再生可能エネルギー(地中熱)の活用による化石燃料及びCO2削減が図られるとともに、生産コスト改善、労働環境改善、環境負荷軽減等を実施し、成果を公表しながら、啓蒙・普及を図ってまいります。



期待される波及効果

- 地中熱交換システムと太陽光発電等との併用化など、今後の発展が期待される
- 仔牛へい死の低減、泌乳牛のストレス減で乳量安定、増産が見込まれる
- システム導入により、氷点下での搾乳作業等の労働環境改善による人材確保が図られる
- 環境に優しい自然エネルギーを活用した酪農により、地場産品のイメージ向上が図られるとともに、育成時の抗生物質投与の減による安心・安全な育成の効果による付加価値向上を目指す
- 経営資源の安定確保、エネルギーコストの低減により、競争力向上、経営体質強化が図られる

事業実施者

地中熱活用による仔牛育成コンソーシアム

構成: 標茶町、標茶町農業協同組合、

標茶町エコヴィレッジ推進協議会、長坂牧場、標茶町育成牧場

「エスロン®リブクール®」は、積水化学北海道株式会社の登録商標です。



地中熱 交換システム とは?

特徴1

非常に単純なシステムで壊れにくい

右図のように地下わずか2m位の深さに樹脂製熱交換パイプを約100m程埋設し、そのパイプに直接送風機で外気を吹込み地中熱と外気の温度差で熱交換する、極めて単純なシステムです。

特徴2

非常に長寿命で耐用年数は50年以上 使用するエネルギーが送風機の電気代のみ

使用する樹脂管の耐用年数は50年以上。
地中熱交換するために使用するエネルギーは送風機の電気代のみでCOP(使用エネルギーに対し取得できるエネルギー量)は30倍にもなります。
ランニングコスト・維持管理に手間の掛からないシステムです。

